



ミドルリーダーの挑戦
—前へ! 前へ!!

円滑に学校運営を進めることを通じて より良い学校づくりを支えたい

栃木県佐野市立赤見中学校 **片岡博志** 48歳



Middle Leader

かたおか・ひろし◎教職歴 25年目。佐野市立城東中学校などに勤務後、初任校である同校に再赴任して8年目。担当教科は数学。モットーは「是々非々を貫く」

これまで私が歩いてきた道のり

**分からないことは
率先して聞き
未熟な部分を補う**

教務主任となり、2012年度で2年目を迎えました。これまでに生徒指導主任を5年、学年主任を4年と経験を積んできましたが、教務主任の役割は想像以上に広いものでした。主な業務は、1〜3年生それぞれの教育課程が1年間で全て終わるように時間割をつくり、学校行事の日程の計画を立て、次年度以降はそれを運用しつつ、行事などに向けて関係各所と連絡を取り、会議日程などの調整をすることです。それを3

学年分行いますから、学校全体の運営にかかわることになります。前任者からは「先々を見通して早めに動くこと。そうしないと周りに迷惑が掛かる」と助言されました。例えば、

学年主任への通知が1日遅れると、生徒が保護者にプリントを渡すのが遅れ、保護者からの返事も遅くなる。結果、教師側の準備も遅れるというわけです。

頭では分かっているのですが、1年目は教頭から「これはやったか」「あの通知は出したか」と言われてから取りかかることがよくありました。ある時、1〜3年生の宿泊行事が立て続けにあったのですが、自分

としては準備はまだ大丈夫と思いついていたために、校長の急な出張が入り、打ち合わせの日程調整が厳しい事態に陥ったことがありました。そこで、予防策として、まず自分がこうしたらどうなるのかと考えたことを、周りの先生に出来るだけ相談するようにしました。そうすると先生たちの仕事のペースや課題が少しずつ見えてくるようになりました。

教務主任の見通すべき範囲は学校全体であり、自分の行動が影響する範囲も校内だけでなく、保護者や地域にまで広がります。自分はまだ見通す力が弱く、分からないことも多いのですが、立場が変わっても分かったふりはせず、また恥ずかしがらず、分からないことは自ら聞き、一つひとつの経験を糧にして、学校全体の取り組みの改善につなげていきたいと考えています。

**自分から積極的に
学年団の輪に入り
人間関係をつくる**

教務主任となり重視していることの1つは、普段から積極的に先生たちとコミュニケーションを取ることです。私は授業を受け持っている

ものの、分掌は学年団から離れており、職員室での席も校長、教頭の並びにあります。担任や学年主任だった頃は、特に意識しなくても休み時間や放課後に学年団の先生と生徒の話をしていたので、その時々々の課題をしつかり把握できていました。しかし、今は自分から求めていかない限り、学年の課題を把握する機会はありません。そこで、自分から積極的に輪に入り、授業での生徒の様子

などを話題にしながらコミュニケーションを取るようになっています。こうした人間関係を築いておくことは、単に職場の雰囲気をよくするだけでなく、円滑な学校運営のためにも重要です。例えば、時間割の変更を突然お願いすることになっても、お互いをよく知っていれば、受け入れてもらいやすくなります。生徒のためにも、教師間の信頼関係は大切だと思います。

今、私が踏み出そうとしている新たな一歩

突発的な事態にもスムーズに対応できる心の余裕を持てるように

私の役割は、学校運営において突発的な変更が起きても、先生方が教育活動をスムーズに進められるようにすることです。教師の戸惑いや迷いは生徒への接し方に影響し、生徒を困惑させるからです。

どんな場合でも教育活動を円滑に進めるためには、まず私自身が予想外の出来事があっても慌てることなく対応できるようにしなければなら

りません。今の自分に必要なのは心の余裕だと思います。

まずは、1年目に指摘されていたことを少しでも減らし、自分で先々をきちんと考えて行動できるようになることが目標です。自分の意識を変えようと、今年から変更点などはメモをしつかり取り、文書で残すようにしました。担任や学年主任時代にはメモを取らなくても、すべきことは頭に入っていたのですが、今は覚えきれないことも多く、次年度のためにも整理しておこうと思い、始めました。

今は聞かれたことに答えるのが一杯で、後輩の先生たちを積極的に育てるだけの余裕がありません。しかし、学校全体を見渡し、目配りが出来るようになれば、次のステップとして、学年主任や生徒指導主事に自分からアドバイスできるようにされるのではないかと思います。教務主任は、担任のように生徒と接することはなく、校長のように学

校の方向性を決めるわけでもありません。しかし、先生たちの教育活動を支える基盤となる運営を担っているといます。担任や学年主任時代と比べて、生徒とのかかわり方は大きく変わりましたが、今の責務をしつかり果たすことを通して、より良い学校づくりや生徒の学びの充実に貢献していきたいと思っています。

円滑な運営のために記録

片岡先生の取り組み

◎変更や問題点、伝達事項など、全てメモをし、生徒指導、学校行事などのファイルにまとめるようにしています。曖昧なままにして、抜け漏れを防ぐためです。また、どの学校もそうだと思いますが、教育課程は時間割の変更があっても授業時数が合うように、パソコンでデータを管理しています。



パソコンで教育課程や行事の日程、発信した書類などを管理し、生徒指導や学校行事などで変更・課題が生じたことは、その場でメモをしてファイリングしています。